

マーガレットの大量増殖に関する研究(第 1 報)多芽体の形成について

十島秀樹

マーガレットの大量増殖における多芽体培養(multipleshoots culture)の利用について検討した。品種は,"銀波"を用いた。

多芽体誘導培地としては,2g/l ハイポネクス,100mg/l NH<sub>4</sub>NO<sub>3</sub>,100mg/l MgSO<sub>4</sub> · 7H<sub>2</sub>O,30 mg/l Fe · EDTA,4mg/l ピリドキシン塩酸塩および 30g/l ショ糖を含む培地を基本培地とし,生長調節物質として 1.5mg/l カイネチン,0.4mg/l ベンジルアデニンおよび 8mg/l アデニンを含む培地(A 培地),および 0.5mg/l カイネチン,0.4mg/l ベンジルアデニン,4mg/l アデニンおよび 4mg/l ジベレリン(GA3)を含む培地(B 培地)の二種類を用いた。

得られた結果は次の通りであった。

1. 多芽体の形成は A,B 両培地でみられた。多芽体形成率は A 培地で 93%,B 培地で 75%であった。  
多芽体 1 個あたりの平均茎葉本数は,A 培地で 4.4 本 B 培地で 5.9 本であった。
2. 移植可能な大きさ(0.5~2 cm)の茎葉を,生長調節物質を含まない Murashige-Skoog の培地に移植したところ,約 3 週間で 90%のものに発根がみられた。
3. 開花後,花卉の形質を調査したところ,高頻度の形状変異がみられた。A 培地由来のものでは,21 個体中 16 個体,B 培地由来のものでは 23 個体中 5 個体に管状花卉がみられた。  
花色の変異はみられなかった。